

「高倉の昔ばなし」

五番 暗闇坂のはだか娘

平成十三年一月二十八日
高倉郷土芸能保存会

語

昔、高倉寺の近くに、「豆腐屋の岩助さんが住んでいた。」この人から聞いた話に、またまた出合ったと云うお話です。
雪のあした清ちゃんと云う人がかみさんに頼まれ、黒須へ醤油を買いに行き、暗闇坂の下まで帰って来ると。

太

ニンバ

(清)

徳利を下げ歩き踊り入場

ニンバ切

(権)

追いかけて入場 続いて仲間も

権

「おーい隣の清ちゃん、一緒にけえんべえや」

「アーア権ちゃんか、お前えも使けえかよう」

権

「うーん、おらあナア、昨日黒須の親けえ遊びに行つてナ、雪に降り込まれて泊つて来ただよ。それで皆んなど逢つただよ。一人じゃア暗闇坂アおつかねえから助かったよう。でも今日は朝つからい天気になったナア、こんな日うはだか虫の洗濯つちゆうたんべえナア」

清

「そうええば、豆腐屋の岩助さんが若えじぶんナ、今日みてえな雪のあしたなア、ここを登つて来ただと、そうすんなア、その清水で若いい娘がナア、はだかでナア、洗濯うしてただよ。岩助さんナア『ずいぶん元気がいいじやねえかい』って声かけて登つて来ただと」

(皆) いるいると指をさす

娘登場

娘引込

大男入場

「そうすんな、坂の上からでつかい男が降りて来ただと、岩助さんナア、その男に娘のことを話すとナア、でつかい男はナア『ありやアおれだ』つたとよう、岩助さんが振り返つて清水の方を見んと娘ア消えていねえ、あわてて男を見んと男も消えていねえ、岩助さんうったまげてとうとう腰抜かしてナア、坂ア這い上つてやつと帰つて来たしよう。
あれえ、あにう皆な震えてんだ。あにいのはだかの娘がいなくなつたア。あにいゆつてんだ始めつからいやあしねえよう、あにいでつかい男が来たア」

皆

「おつかねえ逃げろ、逃げろ」

太

シチョウメ 男追いかける

太切

清

「あにも居やあしねえじゃねえかよう。ああ、ああそうか、おんの話がうんま過ぎたかア、アツハツハ・・・」

太 ニンバで引込み

高倉の昔話には、このような怪談も残っております。
有難うございました。